

14時30分解禁

2023年7月 全国百貨店売上高概況

2023年8月25日

I. 概況

1. 売上高総額	4,758億円余
2. 前年同月比(増減率)	8.6%(店舗数調整後/17か月連続プラス)
3. 調査対象百貨店	70社 181店(2023年6月対比±0店)
4. 総店舗面積	4,738,907㎡(前年同月比:-3.2%)
5. 総従業員数	51,981人(前年同月比:-6.8%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	12-2月 11.2%、1-3月 14.6%、2-4月 12.4%、 3-5月 8.3%、4-6月 7.3%、5-7月 7.4%

[参考] 2022年7月の売上高増減率は9.6%(店舗数調整後)

【特徴】

7月の売上高は8.6%増と17か月連続のプラスとなった。コロナ前の2019年比では1.5%減と前月より3.6ポイント改善しており、回復基調が鮮明になってきた。

猛暑が続いた天候与件や旅行需要などにより盛夏商材が牽引した他、ラグジュアリーブランド・宝飾品などの高付加価値商材も好調に推移した。円安効果と入国制限終了などから増勢が続くインバウンドは、2019年実績も超えて売上全体を底上げた。各社が企画したファミリーイベントやアニメ展、食品催事や外国展等各種企画も奏功し、入店客数は9.7%増(17か月連続)となった。

顧客別では、インバウンドが206.6%増(16か月連続/シェア6.6%)、売上高313億円と、コロナ禍の2020年2月以降、最高額を更新した。2019年比でも二桁増の11.4%増と、コロナ前の実績を大きく超えた。国内市場は3.9%増(17か月連続/シェア93.4%)、2019年比では2.3%減だが、減少幅は前月より3.0ポイント改善した。

地区別では、都市(10都市/22か月連続)が、インバウンド効果と、高額商材の高伸などから、全地区で前年実績をクリアし、11.0%増と前月に続き二桁伸びを示した。5地区で前年実績を超えた地方(10都市以外の7地区)も1.6%増と、3か月ぶりにプラスに転じた。

商品別では、主要5品目全てで前年実績を超えた。外出機会増加や天候与件などから、衣料品(10.7%増)と身のまわり品(16.0%増)、化粧品(15.1%増)は、盛夏アイテムやUV関連が好調で高い伸びを示した。主力の衣料品ではクリアランスのセール品以上に実需品へのニーズが高く、定価販売のプロパー商材も健闘した。身のまわり品では、バッグやアクセサリ、旅行用品、日傘などがよく動いた。国内外ともに好調だった化粧品は、UVケアやメイクアイテムが伸長し、食料品は、手土産やギフト、インバウンド需要などから菓子が引き続き好調だった。中元商戦は自家需要の高まりもあって堅調に推移した。

【要因】

(1) 天候：気象庁発表「7月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)

◇気温は北・東日本でかなり高く、西日本で高くなった。降水量は、前線や低気圧の影響を受けにくかった北・東・西日本太平洋側で少なかった。日照時間は北・東日本太平洋側と東日本日本海側でかなり多かった。

(2) 営業日数増減 31.0日(前年同月比 ±0.0日)

(3) 土・日・祝日の合計 11日(" ±0.0日)

(4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数103店舗)

①増加した：61店、②変化なし：27店、③減少した：15店

(5) 7月歳時記(中元、クリアランス、夏休み)の売上(同上/有効回答数75店舗)

①増加した：13店、②変化なし：54店、③減少した：8店

NEWS LETTER

全国百貨店 売上高速報 2023年7月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	475,829,436	100.0	8.6 (8.4)
10都市	362,344,916	76.2	11.0
札幌	12,319,615	2.6	7.3
仙台	6,630,431	1.4	0.4
東京	140,115,227	29.4	12.2
横浜	28,499,123	6.0	0.2
名古屋	33,229,466	7.0	8.0
京都	21,077,834	4.4	17.4
大阪	78,487,570	16.5	15.1
神戸	12,547,507	2.6	10.3
広島	9,080,523	1.9	0.3
福岡	20,357,620	4.3	15.3
10都市以外の地区	113,484,520	23.8	1.6 (0.6)
東北	4,444,089	0.9	-5.2
関東	49,494,137	10.4	0.5 (-0.9)
中部	8,029,879	1.7	-0.2
近畿	16,966,090	3.6	5.3
中国	8,947,388	1.9	1.5
四国	6,386,833	1.3	5.7
九州	19,216,104	4.0	2.6

注) 2023年2月より、北海道の1店舗を地区区分10都市の札幌に合算しております。

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	475,829,436	100.0	8.6 (8.4)
紳士服・洋品	23,596,034	5.0	9.2 (8.9)
婦人服・洋品	81,722,950	17.2	12.9 (12.7)
子供服・洋品	6,180,200	1.3	3.5 (3.2)
その他衣料品	7,224,920	1.5	-1.7 (-1.9)
衣 料 品	118,724,104	25.0	10.7 (10.4)
身のまわり品	77,574,066	16.3	16.0 (15.5)
化粧品	35,721,363	7.5	15.1 (14.8)
美術・宝飾・貴金属	44,429,369	9.3	2.1 (2.0)
その他雑貨	13,266,386	2.8	7.8 (7.7)
雑 貨	93,417,118	19.6	7.6 (7.4)
家 具	4,469,491	0.9	7.1 (7.0)
家 電	1,315,443	0.3	25.1 (25.1)
その他家庭用品	10,491,668	2.2	5.3 (5.2)
家 庭 用 品	16,276,602	3.4	7.2 (7.0)
生 鮮 食 品	24,303,957	5.1	1.4 (1.1)
菓 子	40,950,349	8.6	8.2 (7.9)
惣 菜	29,499,021	6.2	4.0 (3.8)
その他食料品	47,193,351	9.9	-1.8 (-2.2)
食 料 品	141,946,678	29.8	2.7 (2.3)
食 堂 喫 茶	12,061,533	2.5	23.5 (23.5)
サ ー ビ ス	3,824,058	0.8	-2.9 (-3.0)
そ の 他	12,005,277	2.5	21.3 (21.1)
商 品 券	11,540,186	2.4	-4.0 (-4.3)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | 11.0% (22か月連続プラス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | 1.6% (店舗数調整後／3か月ぶりプラス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
10都市	11.0	8.2	22か月連続プラス
札幌	7.3	0.2	17か月連続プラス
仙台	0.4	0.0	3か月ぶりプラス
東京	12.2	3.5	23か月連続プラス
横浜	0.2	0.0	2か月連続プラス
名古屋	8.0	0.6	22か月連続プラス
京都	17.4	0.7	22か月連続プラス
大阪	15.1	2.4	22か月連続プラス
神戸	10.3	0.3	17か月連続プラス
広島	0.3	0.0	2か月連続プラス
福岡	15.3	0.6	22か月連続プラス
10都市以外の地区	1.6	0.4	3か月ぶりプラス
東北	-5.2	-0.1	3か月連続マイナス*
関東	0.5	0.1	3か月ぶりプラス
中部	-0.2	-0.0	3か月連続マイナス
近畿	5.3	0.2	2か月ぶりプラス
中国	1.5	0.0	3か月ぶりプラス*
四国	5.7	0.1	2か月ぶりプラス
九州	2.6	0.1	2か月ぶりプラス

(注1) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

(注2) 2023年2月より、北海道の1店舗を地区区分10都市の札幌に合算した。

NEWS LETTER

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は全てプラスとなり、衣料品、身のまわり品は二桁増となった。
その他の品目は、紳士服・洋品が8か月連続、婦人服・洋品が17か月連続、化粧品が17か月連続でプラスとなったほか、家具が4か月ぶり、生鮮食品が2か月ぶりにプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	8.6	—	17か月連続プラス
紳士服・洋品	9.2	0.5	8か月連続プラス
婦人服・洋品	12.9	2.1	17か月連続プラス
子供服・洋品	3.5	0.0	2か月連続プラス
その他衣料品	-1.7	-0.0	3か月連続マイナス
衣料品	10.7	2.6	17か月連続プラス
身のまわり品	16.0	2.4	22か月連続プラス
化粧品	15.1	1.1	17か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	2.1	0.2	30か月連続プラス*
その他雑貨	7.8	0.2	16か月連続プラス*
雑貨	7.6	1.5	22か月連続プラス
家具	7.1	0.1	4か月ぶりプラス
家電	25.1	0.1	10か月連続プラス
その他家庭用品	5.3	0.1	5か月ぶりプラス
家庭用品	7.2	0.2	4か月ぶりプラス
生鮮食品	1.4	0.1	2か月ぶりプラス*
菓子	8.2	0.7	23か月連続プラス*
惣菜	4.0	0.3	23か月連続プラス*
その他食料品	-1.8	-0.2	2か月連続マイナス*
食料品	2.7	0.8	12か月連続プラス
食堂喫茶	23.5	0.5	17か月連続プラス
サービス	-2.9	-0.0	2か月ぶりマイナス
その他	21.3	0.5	16か月連続プラス
商品券	-4.0	-0.1	5か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

2023年7月 東京地区百貨店売上高概況

2023年8月25日

I. 概 況

1. 売上高総額	1, 401 億円余
2. 前年同月比 (増減率)	12.2% (23か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭 の増減	店頭13.2%(91.0%) : 非店頭3.4%(9.0%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 22店 (2023年6月対比±0店)
5. 総店舗面積	729,769㎡ (前年同月比: -8.2%)
6. 総従業員数	13,851人 (前年同月比: -7.0%)
7. 3か月移動平均値	12-2月 14.6%、1-3月 17.2%、2-4月 14.5%、 3-5月 10.7%、4-6月 9.8%、5-7月 10.1%

[参考] 2022年7月の売上高増減率は17.6%

【特 徴】

- (1) 7月の東京地区は、売上高12.2%増、入店客数12.2%増と共に二桁増となった。連日の猛暑から盛夏商材の動きが活発だった他、ラグジュアリーブランドや宝飾品等の高額商材が国内、インバウンド共に好調に推移したことで前年を上回った。2019年比では売上高2.9%増と、2022年12月以来7か月ぶりにプラスに転じ、回復基調が鮮明となった。
- (2) 商品別では、主要5品目全てプラスとなった。主力の衣料品(15.5%増/22か月連続)は、外出需要と天候与件からTシャツ、カットソー、ワンピース等盛夏商材が好調に推移した他、コロナ禍で中止していた花火大会や夏祭り・盆踊り等、各種納涼イベントが4年振りに再開したことで、浴衣も大きな伸びを示した。
- (3) 身のまわり品(21.4%増/23か月連続)は、ラグジュアリーブランドが売上を牽引し、円安効果によるインバウンド需要も売上を押し上げた。また、記録的な猛暑から日傘、帽子、サングラス等が好調だった。雑貨(11.0%増/23か月連続)においても、化粧品ではUV関連商品が伸長した。
- (4) 食料品(5.4%増/3か月連続)は、国内外の手土産需要から引き続き菓子が好調に推移し、特にゼリー等の冷菓が動いた他、土用の丑の日(7/30)で鰻も伸長した。中元商戦は、店頭回帰が顕著にみられたが、ECを含むトータルではほぼ前年並みで推移した。猛暑で賑わったビアガーデンを含め、レストランは好調で17か月連続のプラスとなった。
- (5) 8月中間段階の商況は、前年比21.4%増(8/17時点)で推移している。コロナ前の2019年比でも0.9%増と回復基調は継続している。

【要 因】

- (1) 営業日数増減 31.0日 (前年同月比 ±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見える傾向値/前年同月比/有効回答数18店舗)
 - ①増加した: 16店、②変化なし: 1店、③減少した: 1店
- (3) 7月歳時記(中元、クリアランス、夏休み)の売上(同上/有効回答数13店舗)
 - ①増加した: 2店、②変化なし: 10店、③減少した: 1店

東京地区百貨店 売上高速報 2023年7月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	140,115,227	100.0	12.2
紳士服・洋品	9,288,658	6.6	14.5
婦人服・洋品	20,800,539	14.8	18.3
子供服・洋品	1,786,671	1.3	11.1
その他衣料品	1,818,815	1.3	-2.9
衣 料 品	33,694,683	24.0	15.5
身のまわり品	24,914,267	17.8	21.4
化粧品	11,112,711	7.9	24.4
美術・宝飾・貴金属	15,572,050	11.1	2.1
その他雑貨	4,793,985	3.4	14.7
雑 貨	31,478,746	22.5	11.0
家 具	1,469,317	1.0	2.7
家 電	902,232	0.6	24.4
その他家庭用品	2,894,566	2.1	4.0
家 庭 用 品	5,266,115	3.8	6.6
生 鮮 食 品	4,792,748	3.4	4.3
菓 子	11,481,277	8.2	14.3
惣 菜	7,678,389	5.5	6.6
その他食料品	13,280,938	9.5	-1.5
食 料 品	37,233,352	26.6	5.4
食 堂 喫 茶	2,803,509	2.0	21.2
サ ー ビ ス	1,772,802	1.3	-6.9
そ の 他	2,951,753	2.1	28.2

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	2,449,162 千円	-4.3
従 業 員 数	13,851 人	-7.0
店 舗 面 積	729,769 m ²	-8.2

営 業 日 数	31.0 日	前年	31.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は全てプラスとなり、衣料品、身のまわり品、雑貨は二桁増となった。
その他の品目は、紳士服・洋品が21か月連続、婦人服・洋品が23か月連続でプラスとなったほか、生鮮食品、惣菜が2か月連続、菓子が29か月連続でプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	12.2	—	23か月連続プラス
紳士服・洋品	14.5	0.9	21か月連続プラス
婦人服・洋品	18.3	2.6	23か月連続プラス
子供服・洋品	11.1	0.1	13か月連続プラス
その他衣料品	-2.9	-0.0	3か月連続マイナス
衣料品	15.5	3.6	22か月連続プラス
身のまわり品	21.4	3.5	23か月連続プラス
化粧品	24.4	1.7	23か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	2.1	0.3	2か月連続プラス*
その他雑貨	14.7	0.5	17か月連続プラス*
雑貨	11.0	2.5	23か月連続プラス
家具	2.7	0.0	2か月連続プラス
家電	24.4	0.1	10か月連続プラス
その他家庭用品	4.0	0.1	4か月ぶりプラス
家庭用品	6.6	0.3	7か月連続プラス
生鮮食品	4.3	0.2	2か月連続プラス*
菓子	14.3	1.2	29か月連続プラス*
惣菜	6.6	0.4	2か月連続プラス*
その他食料品	-1.5	-0.2	5か月連続マイナス*
食料品	5.4	1.5	3か月連続プラス
食堂喫茶	21.2	0.4	17か月連続プラス
サービス	-6.9	-0.1	3か月ぶりマイナス
その他	28.2	0.5	6か月連続プラス
商品券	-4.3	-0.1	5か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>